

新 除 草 ・ 調 節 剤

セ ス ロ ン[®] 粒 剤
ジメピペレート・シメトリン・
フェノチオール粒剤

(取扱メーカー) 北興化学工業株式会社
三 菱 油 化 株式会社

対象作物：移植水稻

成分・作用特性：本剤は、S-1-メチルー1-フェニルエチル=ピペリジン-1-カルボチオアート……ジメピペレート10%，2-メチルチオ-4，6-ビス(エチルアミノ)-S-トリアジン……シメトリン1.5%と2-メチルー4-クロロフェノキシチオ酢酸-S-エチル……フェノチオール0.7%を含有する類白色の細粒である。

本剤は、イネ科のノビエに強く作用するイネ科属間選択性をもった新規なチオールカーバマ

ート系除草剤ジメピペレートと既に広く使用されているシメトリンとフェノチオールの三種有効成分を配合した水稻用中期除草剤で、これらの作用の特性を活かし、高い除草効果を発揮する。ジメピペレートは、雑草の根部・基部・茎葉部から吸収され、植物体内を移行して生長点の細胞分裂阻害、生育停止、そして枯死に至らしめ、タンパク質合成阻害が主たる作用である。一方、シメトリンは、雑草の根部や水中に没した茎葉部から吸収され、植物体内を移行して葉の先端やその周辺部に集積し、光合成阻害の作用で枯死させる。また、フェノチオールは、植物ホルモン作用を有する植物の正常なホルモン作用を攪乱して枯死させる。

特徴：①広範囲な雑草に有効である。ノビエをはじめ一年生のイネ科・カヤツリグサ科、およびコナギ・キカシグサ・アゼナ等の広葉雑草はもとより、多年生のマツバイ・ホタルイ・ウ

作物名 〔作型・栽培法〕	薬剤名・剤型 (商品名) 〔委託者名〕	有効成分および含有率 (%)	試験の種類 新 緑 別	試験実施場所 (数) ()=中間or試験中	試験設計〔ねらい〕 処理時期; 散布薬量 <水量/a>; 処理方法	今回判定	判定理由または内容
6. ロードデ ンドロン 属 〔鉢物慣行〕	(1) PP-333 フロアブル (ボンザイ) 〔アイ・シー ・アイ〕	バクロブトラ ゾール……2	適用性 継 続	千葉、福岡、 (2)	〔矮化・着蕾増進〕 ピンチ2～3週間後; ・散布処理…100, 200 ppm<10m ² /株> ・灌注処理…10, 20 ppm<100m ² /株>; 茎葉散布または土壌灌注.		〔前回判定済〕
7. アジサイ 〔鉢物慣行〕	(1) S-07 液 (スミセブン) 〔住友化学, 山本〕	ユニコナゾ ール…500ppm	適用性 継 続	群馬、千葉、福岡、 (3)	〔矮化効果による草姿改良〕 一任; ・散布処理…10～25 ppm ・灌注処理…0.5～1 m ² ; 茎葉散布または(土壌) 灌注.	継	・試験成績不一致.

新 除 草 ・ 調 節 剤

リカワ・ヘラオモダカ・ヒルムシロ・セリのほか、藻類・浮草類の水田雑草に高い効果を発揮する。また、ミズガヤツリ・表土はく離にも有効である。②除草効果が安定している。処理適期幅が広く、更に、湛水深や減水深の変動による除草効果への影響は小さい。③抑草期間が長い。茎葉兼土壌処理で、30日以上長期にわたる抑草期間を有する。④水稻に対する安全性が高く、砂壤土等の不良環境田においても影響が少ない。⑤人畜・魚介類に対する毒性が低く、コイによる試験では、貧血・慢性的な障害は認められていない。また、環境に及ぼす影響が少ない。

毒性：急性経口毒性は普通物，魚毒性はB類である。

使用方法：移植前後の初期土壌処理剤との体系処理で使用し，移植後20～25日（ノビエ2.5葉期以内，但し北海道はノビエ2葉期）に10a当り3～4kgを湛水散布する。

使用上の注意：①湛水状態で均一に散布し，散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態（3～5cm程度）を保ち，田面が露出しないようにする。また，落水やかけ流しをしない。②雑草の生育初期に効果が高いので，適期を失なわないようノビエ2.5葉期（北海道はノビエ2

葉期）までに散布する。ノビエ2.5葉期までの藻類・浮草類を含む一年生雑草，2葉期までのホタルイ，3葉期までのヘラオモダカ，4葉期までのウリカワおよび増殖初期までのヒルムシロ・セリが本剤の散布適期である。③本剤は以下のような悪条件下では，薬害を生じるおそれがあるので使用はさける。(イ)苗が軟弱な場合や活着不良の場合，または極端な浅植えや深植えの場合。(ロ)砂質土壌の水田，減水深の大きな水田，透水不良田，天水田，ガス発生田，強還元田および未熟有機物多用田。(ハ)極端な浅水および深水の場合。(ニ)整地の不均整な水田。④本剤はシメトリンを含むので，処理後に平均気温30℃以上の高温が予想される場合，または気温の日較差の大きい場合には，下葉枯れ，葉枯れ，分けつ抑制等の薬害が生じるおそれがあるので使用をさける。ただし，6葉期以降の水稻には高温による障害が小さいので実用的にはほとんど問題なく使用できる。⑤本剤はフェノチオールを含むので，処理後低温が長く続く場合にはロール葉等の薬害を生じるおそれがあるため，処理時期の平均気温が15～16℃以下になるような場合は使用をさける。また，5葉期末満の水稻には使用をさける。

植 調 協 会 だ よ り

◎ 第22回評議員会開催す

昭和61年9月25日(木)，植調会館3階会議室において，評議員110名中82名（委任状を含む）出席のもとに開催し，谷口譲氏（八洲化学）が議長に選任され，①昭和62年度評議員会費につ

いて，前年通りの算定基準を用いることとして審議の結果，原案通り可決された。②報告事項として，昭和60年度事業および収支決算，剰余金処分，昭和61年度事業計画および収支予算，研究所の増築整備について報告され，終了した。

◎ 人 事 異 動

昭和61年9月30日付

退職 事務局 技師

津田玲子